

令和元年度 先進地研修会

～早生広葉樹林の造成と材の利用状況～

1 研修内容

県内のスギ・ヒノキ人工林の約8割が利用可能な時期を迎えているが、木材価格の低迷による採算性の悪化などにより、森林所有者の経営意欲が低下し、主伐が低迷しているものの、今後は木材需要の高まりや伐出生産性の向上とともに主伐が増加していくものと思われる。

人工林の主伐後の跡地造林は、前生樹のスギ、ヒノキの再造林が主流となっているが、森林に植生の多様性を持たせることや人工造林の採算性を上げるために、短期で収穫できるセンダンなどの早生広葉樹の植栽が始まっている。

県内における広葉樹の植栽は、シイタケ原木となるクヌギの植栽が定着しているが、今後は、板材など材の利用を目的とした新たな広葉樹の植栽が求められている。

このようなことから、スギ人工林の標準伐期齢の約半分の期間で収穫できるセンダンの人工林の仕立て方や家具等におけるセンダンなど広葉樹材の利用状況を視察した。

2 研修日 令和元年1月23日（木）～24日（金）

3 主催 公益財団法人佐賀県森林整備担い手育成基金

4 研修先 ① 有限会社高田製材所（福岡県大川市）
② 有限会社トマト（福岡県大川市）
③ 株式会社丸仙工業（福岡県柳川市）
④ 梅檀（せんだん）の未来研究会（熊本県天草郡苓北町）

5 行程 令和2年1月23日（木）～24日（金）
（佐賀県林業試験場から視察先までの往復はマイクロバスを利用）